巻頭言
＊

未来へ

日下部芳志

なにか面はゆい気持ちでいたら、なんと神皮の巻頭言をとの依頼がありました。開業して37年目に入り、神皮会員になってから35年程は経っています。過去を振り返るとあまりにも膨大な人々との縁があり、その思い出は無尽蔵です。そして、その全ての方々のお陰で今が在ります。心から感謝申し上げます。私は69.9歳までしか生きられないと心の片隅で何時も確信しながら生きて来ました。そこまで全力で思い切り悔い無く生きようと。ですから、自分が今70歳になった実感が湧かないのです。一種の五月病でしょうか。そんな自分には決まって天罰が下ります。この１月中旬、家の階段を駆け下りて宙に舞い肋骨骨折、全治６週間でした。静かにしていると、もっと恐ろしいものが中国武漢からやって来ました。神皮始まって以来初の例会中止。肋骨は無事治癒しましたが、気が付けば、新型コロナウイルスはすぐそこまでやって来ていました。今これを書いているのは３月８日。全世界へウイルスは拡散し、日本は必死で踏ん張っています。どうかこのまま、もうすこしで収まってくれるのを願うばかりです。

何か生き急いで来た様な気もします。世界60ヶ国余りを歩き（幸いスペイン語は第二の母国語）、行く先々で人々にも、物にも恵まれ、『無駄と寄り道』をして人生を豊かにできたと思っています。時代も良かった。戦争も、大きな自然災害やテロにも幸い遭っていない（パリで爆弾テロ未遂のニアミスには遭遇した）。しかし今はウイルス、目に見えない。今年はオリンピック。無事に出来る事を祈るばかりです。なんだか杞憂と自慢話ばかり書いてしまった。これが歳を取って来た証拠かな。年寄りは、頑固で意固地になるか、昔の自慢話ばかりになるとか、心して自省します。

せっかくの巻頭言、若い先生、皆様に明るく豊かで安全な未来がありますように心から願います。でも、それは、ひょっとして、ご自身の手で掴むしかないのでしょうか。

この原稿は、新型コロナウイルス感染症の拡大による混乱の中、休む暇もなく換気をし、マスクをして懸命に黙々と診療しながら書いております。ここからは妄想です。私の診療所は一階で駐車場に面しています。窓の外の患者様も見えます。会話もでき『ドライブスルー皮膚科』も可です。AI付き画像診断装置とレセプト直結のコンピューターがあり、保険証は全てクレジットカードのIC付き。患者様は、入ってきて保険証を差し込むだけ、一人個室に入りAIに診せ、診断をAIから聞く。処方箋は自動的に薬局に送られ、指導もプリントアウトされる。保険証の有効期限切れや、過剰、適応外、無駄もなし。……ここまで考えて、ハタと手が止まる。まだまだ現実の世界から逃れられない自分が居ると。

青い空に浮雲がポカリと浮いている。『先生、止めないでね』の言葉に内心救われる。人生それ程捨てたものでもありませんね。尊い仕事に日夜邁進していらっしゃる諸先輩先生方と、若い先生方に、心から尊敬と感謝の気持ちを込めて。

追伸：校正でもう少し追加可と。あれから２ヶ月、事態は急変。オリンピックは来年に延期。拡散した新型コロナウイルスの猛威は、世界の生活環境を変え、人々に計り知れない影響を残しそうです。もう少しです。皆で耐え凌いで頑張りましょう。この神皮がお手元に届く頃、皆の心は安堵感で満ち溢れていますように。生き残ろう、きっと。そして、また会おう。笑顔で。

（小田原市 日下部皮膚科）